平成18年度 決算報告

平成18年度の橋本市の収入と支出状況を公表します。市の予算がまちづくりにどのように使われたか、明らかにするのが決算です。

今月号では皆さんに納めていただいた税金の使われ方や、市の台所事情についてお知らせします。

決算の概要

市の財政は、総務費・民生費・教育費など行政サービスを行ううえで基本となる一般会計と、国民健康保険など13の特別会計から成り立っています。一般会計と特別会計を合わせた市全体の会計総額は、歳入443億9797万4千円、歳出434億2347万円となりました。平成18年度の普通会計※での歳入総額から歳出総額を差し引いた額のうち、次年度に繰り越された事業に必要な財源1億993万8千円を差し引いた実質収支額は7264万円2千円の黒字決算となりました。しかしこれは財政調整基金や地域開発整備基金7億9千万円などを取り崩しての黒字であり、非常に厳しい財政状況となっています。

なお、市の借金となる起債、預金となる基金の残高は下表のとおりです。

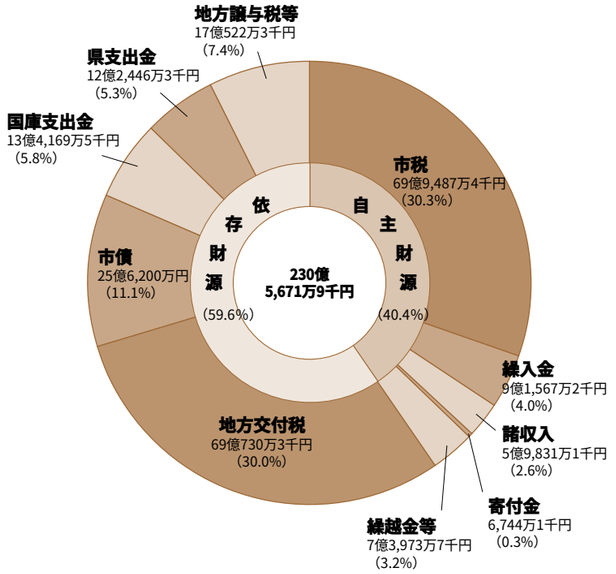
※普通会計…一般会計・住宅新築資金等貸付事業特別会計・墓園事業特別会計・土地区画整理事業特別会計の4会計と簡易水道事業特別会計の一部をあわせたもの

▶▶ 市の起債（借金）と基金（預金）の残高 ◀◀

		平成18年度末	平成17年度末	比　較
起債	普通会計	27,403,559千円	27,330,185千円	73,374千円
	起債合計	61,409,954千円	62,703,685千円	△1,293,731千円
基金	財政調整基金	1,219,100千円	1,396,434千円	△177,334千円
	基金合計	4,417,776千円	4,218,886千円	198,890千円

普通会計の起債では前年度と比較して7,337万４千円の増となっていますが、全ての起債の合計は12億9,373万１千円の減少となっています。同様に基金でも、財政調整基金では１億7,733万４千円の減となっていますが、全ての基金の合計は１億9,889万円の増加となっています。

一般会計・歳入



用語解説

■自主財源
地方公共団体が自主的に調達できる財源。この比率が高いほど、行政の自主性や安定性が確保される

□市税
市民の皆さんから納めていただいた税金や会社からの法人市民税など

□繰入金
各基金から取り崩して一般会計に繰り入れるお金など

□諸収入
貸付金の返済収入や預金利息など

□寄付金
大規模開発などの開発協力金など

□繰越金
昨年度決算で出た余剰金など

■依存財源
国や県の意志により定められた額を交付されたり、割り当てられる財源

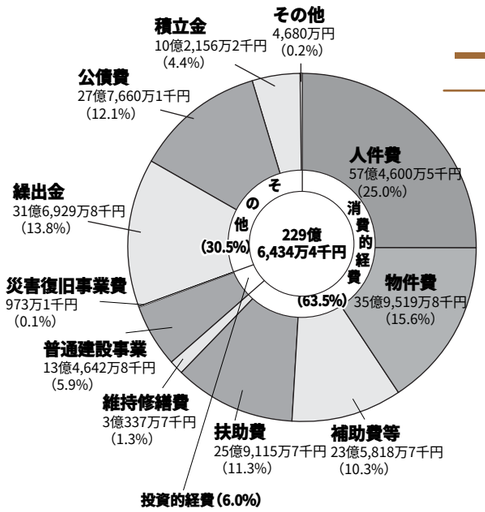
□地方交付税
各市町村が標準的な行政サービスを提供できるよう、一定の基準により国が交付する税

□市債
財政収入の不足を補う借入金

□国庫・県支出金
市が行う特定事業に対して国・県から交付される給付金

□地方譲与税等
本来地方税として徴収すべき税を徴収の困難性・税源の偏在などの理由から、いったん国が国税として徴収し、一定の基準に従い地方公共団体に譲与される税など

一般会計・歳出



性質別

■人件費
議員報酬、特別職給与、職員給与など、勤務の対価として支払われる経費

■物件費
旅費や消耗品費など、他の性質に属さない消費的な経費

■補助費等
各種団体などに対する補助金・負担金、水道事業・病院事業に対する繰出金など

■扶助費
社会保障制度の一環として、児童、老人、生活困窮者を援助するための経費

■維持補修費
市が管理する施設を維持・保全するために行う施設の補修にかかる経費

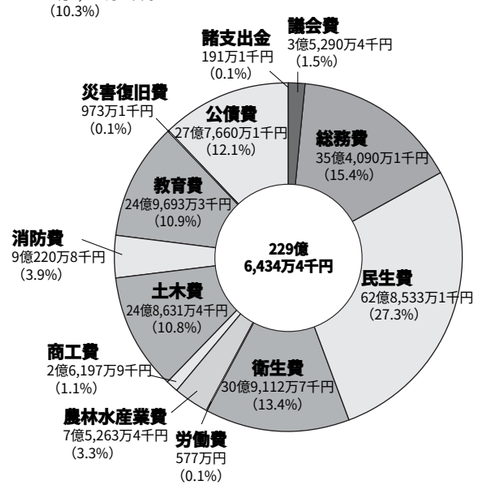
■普通建設事業費
道路や施設の建設、大規模改修などに伴う経費

■災害復旧事業費
集中豪雨や台風などによる被害箇所を現状復帰させる費用

■繰出金
特別会計（国民健康保険、公共下水道事業など）や基金に支出したお金

■公債費
市が借りたお金の返済金

■積立金
基金として積み立てたお金



目的別

□議会費
議会の運営にかかるお金

□総務費
各種計画の策定や推進、内部管理などの経費

□民生費
障害者やお年寄りに対する福祉、子育て支援などの事業費

□衛生費
健康で衛生的な生活環境を守るため、保健・医療・環境などに必要なお金

□労働費
資金融資などの労働対策に要する経費

□農林水産業費
農林業の振興を図るための支援や生産基盤整備などの事業費

□商工費
商工業の振興を図るための支援や中小企業、観光振興のための経費

□土木費
道路、河川、公園などを整備するお金

□消防費
市民生活の安全を守る消防活動費

□教育費
学校教育・生涯学習の充実、芸術・文化・スポーツ振興の費用

□災害復旧費
被災した施設などの復旧に要した費用

□公債費
市債の元利支払いに必要なお金

◆平成18年度の主な事業◆

広域ごみ処理施設建設負担金	2億3,055万2千円
学文路中学校プール新設工事費	8,394万6千円
20区集会所建設事業	7,059万5千円
清水西畑幹線整備費	5,057万1千円
北部連絡線整備費	4,749万1千円
コミュニティバス運行事業	2,275万7千円

◆会計別歳入歳出決算総括表◆

単位：千円

		歳　入	歳　出	差　引
一　般　会　計		23,056,719	22,964,344	92,375
特別会計	国民健康保健	6,786,910	6,419,691	367,219
	簡易水道事業	69,618	69,604	14
	国民宿舎	14,363	13,990	373
	住宅新築改修資金貸付事業	230,237	223,508	6,729
	老人保健	6,407,934	6,456,200	△48,266
	公共下水道事業	2,205,991	2,156,271	49,720
	駐車場事業	4,131	3,637	494
	墓園事業	23,611	18,248	5,363
	農業集落排水事業	155,506	155,270	236
	土地区画整理事業	648,912	570,808	78,104
	介護保険	4,323,897	4,205,330	118,567
	介護サービス事業	50,678	45,588	5,090
	指定訪問看護事業	244,963	195,485	49,478
合　　計		44,223,470	43,497,974	725,496

市の財政状況を一般家庭の家計に例えてみると…

ここでは、市の決算（普通会計）をある一般家庭の家計に置き換えてみるとどうなるのかについて説明しています。
なお、一般家庭の家計における金額は、市の決算額を年度末の市の住民基本台帳登録数（17年度末 69,741人 18年度末 69,374人）で割ったもので、「今月」とは18年度、「先月」とは17年度を表現しています。

収入

一般家庭の家計					市の決算
費目名		今月(H18)	先月(H17)	増減	科目名
給料	基本給	12万3千円	12万5千円	△2千円	市税、使用料および手数料、諸収入　など
	諸手当	16万7千円	15万9千円	8千円	地方交付税、国・県支出金、各種交付金など
	小計	29万円	28万4千円	6千円	
前月からの繰り越し		3千円	1万1千円	△8千円	繰越金
預金の取り崩し		1万4千円	3万1千円	△1万7千円	繰入金
借金		3万6千円	3万2千円	4千円	市債
合計		34万3千円	35万8千円	△1万5千円	

支出

一般家庭の家計					市の決算
費目名		今月(H18)	先月(H17)	増減	科目名（性質別）
義務的な経費	食費	8万4千円	8万円	4千円	人件費
	教育費・医療費	3万7千円	3万3千円	4千円	扶助費
	ローン返済	4万5千円	4万7千円	△2千円	公債費
	小計	16万6千円	16万千円	6千円	
サークルなど各種会費		3万4千円	2万7千円	7千円	補助費等
光熱水費		5万2千円	5万8千円	△6千円	物件費
子どもへの仕送り		4万3千円	4万3千円	0	繰出金
耐久消費財の購入		2万6千円	5万3千円	△2万7千円	投資的経費
家の修繕費		4千円	5千円	△1千円	維持補修費
株式投資		1千円	1千円	0	投資および出資金等
預金		1万5千円	3千円	1万2千円	積立金
合計		34万1千円	35万千円	△9千円	

※表中の数値は今月と先月との比較条件をより近づけるために、平成17年度の特殊要因である旧高野口町退職手当事務組合脱退清算金3億5,922万8千円（人件費）を歳出から減額して計算しています。

家計の特徴

★今月の給料は増えたけど・・・。
基本給は減りましたが、諸手当が増えたため今月の給料は増加しました。しかしこの諸手当は一時的なものであり今後は減額される見込みです。
（基本給（市税）は減りましたが、諸手当（地方交付税）が増えました。これは新市民病院建設時の市債償還に伴う地方交付税の増額によるもので、その分としてサークル等各種会費（市民病院への補助費等）が増えています。）

★預金の取り崩しが少なくなりました。
光熱水費のきりつめや耐久消費財の購入などを抑制したためです。
（市町合併の効果で光熱水費（物件費）や家の修繕費（維持補修費）が減少しました。また平成17年度は合併を控えて耐久消費財の購入（投資的経費）などが増加しましたが、平成18年度では耐久消費財の購入が減少したため、預金の取り崩し（繰入金）が少なくなりました。　※投資的経費とは、普通建設事業等に要する経費です。）

★借金は増えたけど・・・。
借金が増えていますが、これからの生活のために預金も増やしています。
（預金が増えているのは合併により地域づくり基金を積み立てたためであり、そのために増える借金は国からのちに地方交付税で補てんされる有利な借金です。）

★食費が増えたけど・・・。
先月より４千円増えています。しかし今後は減額される見込みです。
（食費（人件費）が増えています。採用抑制による職員給は減少しているものの、勧奨などによる退職者の増加に伴う退職金の増加や市町合併に伴う市議会議員の在任特例による増額などによるものです。）

平成18年度決算　水道事業会計・橋本市民病院事業会計

水道事業

道路・下水道工事にともなう水道管移設や施設の整備工事が減価償却費を増大させ、企業会計を圧迫していますが、支出の抑制に努めた結果、収支状況を好転させることができました。今後もより一層効率的な企業経営に努力するとともに、良質で安定した水の供給に努めます。

◆給水人口　66,845人（計画給水人口の68.07％）
◆給水戸数　24,018戸
◆総配水量　8,824,066㎥
◆総有収水量　7,543,758㎥（有収率85.49％）
◆施設利用率　41.05％

平成18年度水道事業会計決算

収益的収支〔税抜き〕			資本的収支〔税抜き〕		
収益	営業収益	14億1,116万8千円	収入	国庫支出金	4,180万6千円
	営業外収益	1,164万1千円		負担金	6,688万8千円
	特別利益	1,158万7千円		繰入金	7,303万8千円
	計	14億3,439万6千円		補償金	8,502万9千円
費用	営業費用	11億9,657万2千円		企業債	4,180万円
	営業外費用	1億9,804万3千円		計	3億856万1千円
	特別損失	276万4千円	支出	建設改良費	1億1,759万6千円
	計	13億9,737万9千円		第4次拡張費	2億5,146万3千円
差し引き		3,701万7千円		企業債償還金	4億8,831万4千円
				計	8億5,737万3千円
			差し引き		△5億4,881万2千円

公営企業会計は、収益的収入および支出（収益勘定）と資本的収入および支出（資本勘定）の会計からなり、収益勘定は水道事業では飲料水の対価としての水道料金、病院事業では医療の提供に伴う一定の治療費と薬代などで賄われています。
資本勘定は将来の事業目的に対応した、施設の建設や機器の購入などに充てる会計で、原因者の負担金や企業債（借り入れ）、補助金、他の会計からの繰入金で賄っています。資本的収入額が資本的支出額に対して不足する額は、水道事業では過年度損益勘定留保資金等、病院事業では一時借入金で補てんします。

橋本市民病院事業

平成18年度は、心臓血管外科、呼吸器外科の新設、健診専門医および非常勤病理医採用など、医療提供体制の充実に力を注ぐとともに、10対1看護の実施、DPC（診断群分類別包括評価）対象病院、地域がん診療拠点病院指定の取得など、診療報酬点数のアップに努めました。
これらの取り組みにより、入院患者数は74,502人（前年比5,307人増）、外来患者数は145,611人（前年比25,503人増）と総患者数は220,113人（前年比30,810人増）となり、総収入も昨年度を6億4941万5千円上回ることができました。
しかし、費用についても患者数の伸びにともない材料費などの支出が増え、昨年度比5億2548万7千円の増となりました。
この結果、収益的収支では、11億4574万円の純損失となりました。このうち、10億1291万円は減価償却、繰延勘定償却などの現金の支出をともなわない費用です。なお、資本的収支は、18年度から新病院改築に係る企業債の元金償還が始まっています。
今後、より一層医療提携体制の充実、経営健全化に努め、市民の皆さんによりよい医療および看護を提供できる地域中核病院を目指します。

平成18年度橋本市民病院事業会計決算

収益的収支〔税抜き〕			資本的収支〔税抜き〕		
収益	医業収益	42億5,110万4千円	収入	出資金	2,500万円
	医業外収益	3億3,719万3千円		他会計補助金	5億3,039万円
	特別利益	90万5千円		企業債	1億1,240万円
	計	45億8,920万2千円		投資	48万4千円
費用	医業費用	53億5,438万8千円		下水道工事受託料	1,713万円
	医業外費用	3億7,350万4千円		計	6億6,998万7千円
	特別損失	705万円	支出	建設改良費	2億258万8千円
	計	57億3,494万2千円		投資	162万5千円
差し引き		△11億4,574万円		企業債償還金	7億9,558万4千円
				計	9億9,979万7千円
			差し引き		△3億2,981万円